わしくも暗い悲劇の時代であった。現在の日本の平和と繁栄も、これらの戦士達が血で購ったかけがえのない尊いものであることを改めて思い知らされたのである。

「歴進会」会員の中には旧海軍軍人も多いが、この人達は旧軍隊の非人間性、戦争の悲惨さ、空しさを自身でつぶさに体験した者として、また、歴史の生きた証人として、後世に平和の尊さを語り継ぐ義務があると思う。

現在数多く残る旧海軍施設は、国有財産として財務局が管理しており、佐伯市としても国から払い下げを受けて、「平和資料館」を核とする「平和公園」造成の計画もあるようだが、国との交渉がはかどらないのが現状である。

「歴進会」としても、こうした行政に働きかけ、後押しをして、戦争の空しさ、そして平和の尊さを語り継ぐべく歴史的遺産を後世に残すことが本務である。

このような地方都市での運動が基点の一つとなって、国民が人間として生長成熟し、戦争を解決の手段としない、そして戦争のない世界が築かれることを心から願うものである。

訂　正

「佐伯史談」第一五九号(平成四年二月発行)
「六郷満山峰入行」同行体験バスツァーに参加して
中の

P三一下段　峰行に少年少女を中にて　を
　　峰行に少年少女を中にして　に
　　たたずめる傘寿の女花菜畑　を
　　たたずめる傘寿の女菜の花畑　に

P三四上段　巡礼の一寺残して宇佐の宮　石を
　　巡礼の一寺残して宇佐の宮　筆者　に
　　神かけて祈る恋なし宇佐の春　を
　　神かけて祈る恋なし宇佐の春　石に

それぞれ訂正する。